

旭山〜大雪連峰と旭川の接点

ぷくぷく



発行元 (有) 北海道新聞 下村販売所

旭川市東旭川北1条5丁目9番8号

ホームページ <http://www.doshin-pukupuku.com/>

お問い合わせ・お申込みは…フリーダイヤル ☎ 0120-233746

旭山シリーズ 33

H24. 2. 4

その魅力と癒しの空間、歴史を探る シリーズ 33

旭山の不思議な生き物達……お互いに助け合ってやっと生き延びています!

生物多様性と云う言葉をお聞きになっていると思いますが、旭山はこの事を証明する場として最適ではないかと思っています。ある種が単独で生き延びることはなく、周りの多くの生き物達と共生している事実を確認できる旭山は、市民にとって宝の山と云ってもいいでしょう。今回は少し視点を変えて、小動物や昆虫も紹介したいと思います。

ニホンザリガニ (日本に生息する固有種)

年輩の方に聞くと、「そんな物何処にでもいた」と言います。私達腕白坊主時代、旭山近辺の小川で石ころをはがすと、何処でもザリガニが獲れました。火や湯に入ると真っ赤な色になり、案外美味しかった記憶があります。今、日本では三種類のザリガニが生息していて、問題になっているのが「ウチダザリガニ」と「アメリカザリガニ」です。後者はお祭りの出店などで売られていた、あの大きな赤い色の点と挟みを持ったザリガニです。寒さに弱い為道内での繁殖はあまり見られないようです。しかし、前者の「ウチダザリガニ」は、道内の各地域で、猛烈な勢いで繁殖しています。有名なのが阿寒湖で、駆除したウチダザリガニでスープを作ったり、茹でて食べたりしています。もともと人間が食料の一部として放流したのですから、その責任は私達にあることは間違いありません。旭川の河川でも繁殖地が広がっており、本来ニホンザリガニの生息域であった場所が、どんどんウチダザリガニに浸食されています。今や絶滅危惧種として、保護の対象とさえなっているのです。



さて、旭山ではほんの一部の地域で発見されていますが、あれ程何処にでも生息していたニホンザリガニが激減した理由に、巨木(直径1メートル以上の木)の減少と言う事があるようです。巨木の落ち葉が腐葉土を作り保水力を高め、湧き水とザリガニの食べ物を生産するのです。正に小動物と樹木が共生しあっているのですね。ニホンザリガニがそこに生息している事は、その場所が、僅かではあるけれども、まだ自然の姿が残されていると言う証拠なのです。

ニホンザリガニの嘆きをお聞き下さい。

「人間様の都合で河川は分断され、森林は伐採され、外来種に住み家を奪われた私達、やっと見つけたこの小さな住み家、孤立し減少した仲間、種を未来に託す事が出来るかどうかの瀬戸際なんです。それなのに、又、この住み家を掘り起こして、仲間を捕まえて持って行ってしまうのです。ここでしか生き延びられない私達のマイホームを守って下さい。」

※旭山公園の動植物は、法律で獲ったり採集してはならないと決められております。
※写真のザリガニは住み家を踏まれて圧迫され、出てきて死んでしまったものと思われま

オツネトンボ (アオイトトンボ科)

まだ残雪が旭山を覆っている春三月、スキーで八十八ヶ所巡礼の路を、七転八倒しながら滑って行って南斜面の陽だまりに座った所、老木と笹の枯れた隙間に何か動いたように見えたので、ソッと目を移して見ました。老眼鏡越しには、風に揺れる笹の葉があるだけでした。休憩後水分を補給して立ち上がった途端、フワフワと舞い上がった生き物がいました。間違いなく木の洞近辺に、その姿を隠したようでした。デジカメを取り出し、不自由なスキーを脱いでぬかるみを這うようにして近づいてみると、何とそこに

子どもの頃「ハリガネトンボ・イトトンボ」とか呼んでいた、トンボが羽をたたんで休んでいたのです。秋に一生を終えるトンボが何かの助けで今まで生き延びていたのか、はたまた、間違えて早春に羽化してしまったのかと勝手に憶測していましたが、ここ数年に何度か出会った事象なので、調査して見ました。文献によると、このトンボは成虫で越冬すると



記されており、一年中見られると書かれています。そう云われてみると、思わぬ小春日和によく見られたような気がします。厳寒の北海道で、しかも、成虫で何故越冬する道を選んだのか…? 生物多様性の一面を教えてくださいました。

子ども達の生活と遊びの世界では、昆虫と接する機会が大変多く、「トンボ取り」の言葉があったぐらいでした。しかし、近年は身近に見られなくなりました。私達は、「三浦庭園の池」に注目しています。夏から秋にかけて、数種類のトンボが飛び回って自由空間を形成しています。おそらく旭山公園で見られるトンボ類は、この池が中心的な働きをしているのではないかと思います。この場所を、子ども達の自然観察の場として活用できることを願っています。

アオカナブン (コガネムシ科)

この青緑色に輝く身長3cmほどのアオカナブン、夏休みの自由研究に出す「昆虫標本」では、一番自慢できるものでした。子供も大人も旭山でこの昆虫に出会うと、その美しい色に感動してしまいます。何というこの輝き、ブローチにして襟に着けてみたい衝動にかられます。しかし、近年旭山でもめったに見られなくなりました。この写真は、午前10時頃すそのから



樹液を出していたドングリの木に、オオスズメバチやタテハチョウの仲間が群がって樹液を吸っていた近くに飛んできたものでした。人目に付くこんな色を、どうして自己色にしてしまったのか…? おそらくそう云う色にしななければならない訳が、あるのでしょうかね。

スズメバチの巣 (…種類不明)

八十八ヶ所巡礼の路頭に、直径20~25cmほどの円形をしたこの巣を見つけました。おそらく色合いからいって、スズメバチ類の巣と思われます。秋口になって、樹木の葉が落ちた為に簡単に発見出来たのだと思っています。夏の頃この下を巡礼の方々が歩いて



いたのですから、考えて見ると危険極まりない事であったのかもしれませんが。それにしてもこの独特のツートンカラーの色合いと貝殻状の敷き詰め方、見事としか言いようがありません。聞くところによると、巣作りのため泥や枯れた樹木を噛んで体液を混ぜ、ドロドロにして口で貼り付けるとの事。本能とはいえこの素晴らしい造形力、人間の及ぶ所ではないようです。(寄せられた情報では、黒い蜂が入り出していたとの事です。専門家のアドバイスを願います)

「旭山を活かす街づくり市民の会」にご支援ご加入下さい。

私達の会の願いが、いよいよ実現に向かって前進しそうです。昨年市の方で「旭山公園周辺整備基本計画」が出来上がり、一般に公開されました。その内容によると、動物園、三浦庭園、公園を一体化することで魅力の向上が期待できるとし、市民協働による維持管理の実践活動を展開するとなっています。その為にも、各分野で趣味を持たれている市民の方々の参加が必要です。どうぞ、動植物に関心をお持ちの方、デジカメの愛好者、健康志向の方々、遺跡の調査に関心のある方等々、是非参加下さい。お待ちしております。

旭山を活かす市民の会 問合せ先

会の全体について(理事長)

中川 希一 (0166-36-1827)

事務局 長

野村 廣巳 (0166-36-3382)

山野草関係の情報

石井 征士 (0166-36-6667)